

乳用牛預託育成牧場における府内での後継牛育成体制強化へ向けた取組（第2報）

中丹家畜保健衛生所

○前田真彬 森一憲

【はじめに】高齢化や担い手不足の影響により酪農戸数の減少が続く中、乳用後継牛育成体制を強化するため、平成31年4月から生産者団体と府がリレー方式で預託育成を行う取組を開始。関係機関と連携し、衛生管理に重点を置いた支援概要について報告。【事業概要】JA全農哺育センターに府内から哺乳牛を導入、8～11か月齢まで育成後、種付け牧場へ預託。受胎後は、約22か月齢で直接又はJA全農哺育センターを経由して府内農場へ帰牧。本事業は府内農場の約40%が活用。【支援概要】関係機関と連携し①ワクチンプログラムの見直し②導入時の健康調査（臨床検査、血液生化学検査）・牛ウイルス性下痢（以下：BVD）検査・サルモネラ検査③定期的な衛生管理指導を実施。【成果】令和6年3月までの5年間で587頭の牛を導入。導入時の健康調査結果は関係機関や診療獣医師と共有し、死亡率は1.0%。BVD検査では2頭のPI牛を摘発淘汰、サルモネラ検査では1頭の陽性牛の隔離と牛舎消毒を実施し、農場での蔓延と他農場への伝播を防止。衛生管理指導ではカラスをはじめとした野生動物侵入防止対策、飲水消毒対策等を実施。利用者からは、手間のかかる哺乳期間から預託でき省力化に繋がる取組であると高評価。【今後の展望】引き続き関係機関と連携し、継続的な導入時検査・衛生管理指導等の支援を行い、府内の酪農生産基盤の確保・向上に努める。